

朗読コンテスト

令和7年度文の京ゆかりの文化人顕彰事業

小泉八雲・徳富蘆花・夏目漱石 「作家になった教師たち」

【課題作】指定部分

作家名	作品名	参考書籍	頁	指定範囲(読み始め～読み終わり)
小泉八雲	むじな	新潮文庫 『小泉八雲集』 2012.3発行	201-203頁	「お女中」彼はふたたび、できるだけやさしい声でいった、 ～同時に、あかりもふっと消えた。
小泉八雲	雪おんな	新潮文庫 『小泉八雲集』 2012.3発行	229-230頁	ある晩、子供たちが寝静まってから、 ～彼女のすがたは二度と見られなかった。
徳富蘆花	不如帰	岩波文庫 『不如帰』 2012.7発行	132-135頁	「 ^い 好い風だね！」海は ^な 実に ^な 風 ^な げるなり。 ～未来の未来の後までわたしは良人の妻ですわ！」
夏目漱石	夢十夜	岩波文庫 『夢十夜 他二篇』 2007.1発行	7-9頁	こんな夢を見た。腕組 ^{まくらもと} をして枕元 ^{すわ} に坐っていると、 ～——あなた、待っていられますか」
夏目漱石	こころ	岩波文庫 『こころ』 2002.2発行	226-227頁	「K はなかなか奥さんと御嬢 ^{おじょう} さんの話をや めませんでした。 ～ ^{せん} 先を越されたなと思いました。
夏目漱石	坊っちゃん	岩波文庫 『坊っちゃん』 2003.12発行	17-18頁	いよいよ約束が極まって、 ～何だか大変小さく見えた。

※作品の中には、朗読しやすいように表記を改めたものがあります。

お問い合わせ

〒112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2
跡見学園女子大学 文京キャンパス事務室 朗読コンテスト係
Mail : roudoku@atomi.ac.jp URL : <https://www.atomi.ac.jp/univ/>

